

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ロジポート橋本 新築工事	階数	地上5F
建設地	相模原市緑区大山町403番1	構造	RC造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	1,500 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	4,500 時間/年
建物用途	事務所, 工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年10月 予定	評価の実施日	2013年9月2日
敷地面積	67,746 m ²	作成者	株式会社大林組一級建築士事務所
建築面積	32,344 m ²	確認日	2013年9月2日
延床面積	156,214 m ²	確認者	株式会社大林組一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 30% 60% 80% 100% 100%超:
 □建設 □修繕・更新・解体 □運用 □オンサイト □オフサイト

参照値: 100%
 建築物の取組み: 85%
 上記+ 以外の: 85%
 上記+: 85%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
 Q1 室内環境: 3
 Q3 室外環境(敷地内): 2
 LR1 エネルギー: 1
 LR3 敷地外環境: 1
 LR2 資源・マテリアル: 2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
耐久性やメンテナンス性に優れた外装材を使用し、高効率な設備機器を充実させることによって、ランニングコスト減とCO ₂ 発生量の削減に配慮している。また、経済性・省管理性に配慮した常緑樹を多く植栽し、修景に寄与している。	0	
Q1 室内環境 ・遮音・吸音に優れた材料に配慮している。・照明の制御性に優れ、空気質に配慮した快適な執務環境としている。	Q2 サービス性能 ・執務スペースの広さ感、バリアフリー計画を併せ持った快適なオフィス空間の創造に配慮する。・免震構造により高い耐震性と耐用年数の長い外壁材及びダクト材、配管材の採用に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・自生種や野鳥などの食餌木となる樹種を多く確保している。・ランプ部のボリュームを倉庫部と分節し構成することで周囲に対する圧迫感を低減
LR1 エネルギー ・高効率な照明器具を採用し、設備システムの高効率化に配慮する。・用途別エネルギー消費量の把握や管理運営体制の充実等により、設備システムの高効率運用及びエネルギーの有効活用に配慮する。	LR2 資源・マテリアル ・解体時に分別しやすい構造かつ非構造部分にリサイクル材を使用することで、資源の再利用に配慮する。免震構造やプレキャストプレスクンクリートを採用し、材料使用量の削減に貢献している。	LR3 敷地外環境 ・燃焼機器を使わず、大気汚染防止に配慮する。・十分な駐車スペースを確保し、敷地外への交通負荷抑制に配慮した動線計画とする。屋外照明・広告物照明による光害対策を行い、周囲へのグレアを低減している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される